



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。

寄贈本紹介 3冊

黄櫨の会会員 春田文子さんより

去る8月22日、「黄櫨」35号出版の折、立花町の春田文子さんより、戦後64年の夏を迎え、追憶の思いをこめて、戦争期に関わる本を3冊、自分史図書館へ寄贈いただきました。



○『ラバウル日記』

一軍医の極秘私記—麻生徹男著
石風社刊、1999年12月25日発行

700頁をこえる大冊。著者は、明治43年生まれ。九州大学医学部卒業。昭和12年応召。軍医として、中国各地の戦線移動。昭和17年ラバウル上陸。以後、この戦場激戦下の日常を綴られたものである。「帯に、旧帝国陸軍の官僚制としぶとく闘い続けた軍医の2000枚に及ぶ日記文学」と記されているが、戦場さなかにこの日記、只ならぬ信念に痛く感服させられる。昭和21年召集解除、復員後、産婦人科医院再開、昭和64年、79歳で逝去。したがって10年後の出版。戦場では書きつづる日記に検閲がとかくきびしく英文で記されたという。本日記は豪州戦争記念館、米軍の文書保存所に納められているという。

昭和17年12月20日「暗中模索する勿れ。心静かに信仰に伏せよ。さらば真理の光は朝の太陽の如く万物を照らさん—」これは私の中学時代、日本に来訪した印度の哲人タゴールの詩で、以来私の座右の銘で、私ながら今日までの苦難にこれをもって乗り切ってきた。しかしこの度の戦局の敗色と我軍の劣勢では永久に夜明は来ず前途は真暗な気がする」とこの時点で、日本敗れるを感知されている。昭和19年5月1日には「夢の中でも愛する祖国の子供たちに逢えることはうれしい」と記されている。そして、歌に「妻に逢ひ子をまためでし夢なれや、さめたる後は淋しくもあり」。8月18日には、「かえりみて三年がほどよくぞ又生きてありしと感もそぞろに」。私的文書焼却命令に、上官なにを血迷ったかと噴激の行も見えるが、このあたりにも麻生軍医の冷静な判断力が伺われる。数行では紹介されぬ内容。貴重な戦中日記である。



○古里よ、さらば 九男坊の戦場

春田 實行

鹿屋海軍航空基地での龍陸攻隊の悲しい末路とニューギニアのジャングル彷徨、飢餓に耐え、生き残った搭乗整備員の記録。

春田實行さんは鹿児島大隅半島の農家九男坊、女三人、男九人という大家族、五人が戦争体験。起稿にあたり、「今や私も古稀に達し、人の命の尊さが身にしみる。仲の良かった多くの戦友たちをふっと思いだし・・・」とあるが、たんなんに綴られた戦中記録である。



○茜雲の空の下で

終戦前後、少女であった頃の体験

吉開 節子

冒頭に

…それにしても あれはとほい彼方で
夕陽にけぶっていた 中原中也

「在りし日の歌」の詩一節が書きとめら

れた自家版、手づくりの自分史。

書きだしに「私達一家は、終戦の前年、昭和19年10月、群馬県太田市より、この半田市に父の転勤に伴いやってきました。半田市に中島飛行機製作所が17年に誘致され、本社からの転勤でした」とあるが、この町での体験がていねいに綴られている。いじめられている弟をかばい、いじめている子をおし倒したら、先生が飛んできて、私を叱りつけあやませた女教師へのうらみ、しかし後に老いふけたその先生を見かけるようになったいきさつなど、～身につまされるような思い出などがよく書きこまれている。

受贈図書紹介 ④

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。
あしからずご了承下さい。

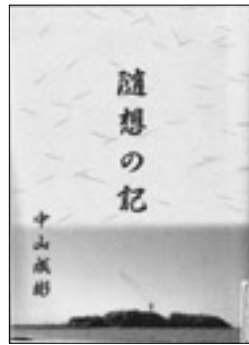
ポテトキング 牛島謹爾 …… 深町 時生 久留米市
一枝一葉一花の集い …… 桑野 慶子 久留米市
句集 鴎日和 …… 井上 淑子 久留米市
帽子をかぶったとうもろこし …… 伊藤 典子 飯田市

追憶 …… 清原 正憲 杵築市
散るぞ悲しき 栗原忠道 …… 梯 久美子
アベマークの守備隊長 …… 栗林徳五郎
歌集 草の分際 …… 金子 きみ 東京都
詩集 天景 …… 織坂 幸治 福岡市
苦難の人生航路 …… 一條眞津子 東京都



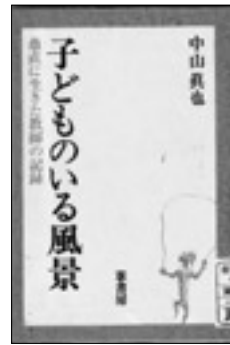
○黒部短歌会合同歌集
溪流
闇の宴 上田 洋一

廃校の庭に満開の桜あり姿なき児らの喊声聞こえて
春弥生研修生の売り子らはまだ化粧せぬ顔ではにかむ
ホタルイカ深き海より湧き出でて光放てり闇の宴に
カーテンを締めるに惜しく残照を請じ入れたり春の夕餉に
さわさわと波打つ青田を白き蝶の海渡ること飛びつづけお
電磁波を浴びたる日常きよう一日絶たんとテレビ消して畑打
うたた寝の枕辺に鳴く虫ありて今宵はこのまま寝ねむと思
しらじらと河原に横たう流木を墓標とせむか瀬上の魚らの
吹雪く野に小首傾けて動かざる鴉の脳の重さ想えり
雪暮れて地鉄電車の灯列はわがふるさとの銀河鉄道



○随想の記
中山 成彬

著者中山さんは昭和2年東京生まれ。海軍兵学校より復員、東北大卒後、安田火災勤務。63年退社、藤沢市鶴沼のお住まい。
“黄櫨”の会武藤和平さんと親しい間柄と伺われる手紙が一通、この本にはさまっていた。
「朝に夕に江の島を眺めてやがて50年。江の島を愛した与謝野晶子の歌碑を建てたことなど私の畢生の思い出となり口絵といたしました」とはじめに述べられている。晶子の歌は——
沖っ風吹けばまたたく蠟の灯に志づく散るなり汀の島の洞。句作もなされ——
逝きし友老いず老ゆ身の枯尾花



○子どものいる風景
中山 眞也
(葦書房)

ぼくは火星人 どうしてかな
みんな火星人と言う
ぼくがふざけて耳をひっぱ
って
口をとんがらすと みんな
かってに火星人、火星人と
さけぶ
秀人君の4年生の時の詩
を例に中山先生はこのよう
に書きつけている。——こ
んな詩や日記を書かせ丹念
に赤ペンを入れていた当時
の先生の熱意はわかる。し
かし君の屈辱に耐える思い
、悲痛な願いは教師の胸
には届いていない。
管理強化、警察力に依存
の中学校、この著書は昭和
50年代の学校状況報告。
さて、平成20年代、今の
教室は如何と問いたくなる
一冊。



○人権文化研究誌
“人権の文化”
2009.9.3
『筑豊・おんが川・通信』

福岡県の同和教育に尽力
貢献の加来宣幸先生、退職
後、この冊誌を発刊され
“人権の文化”その高揚を
念願、喉頭ガンとの闘病生
活にありながらの編集に、
冊誌を手にしながらいき
銘を覚える。
この号には、福岡県生命
を守る会会長各務章先生の
メッセージ特集。
まなざし 各務 章
小学生の私に苦い風邪薬を
手をそえて飲ませてくれた
母のまなざしに気がついた
のは
遠く離れてからだった
季節は年を重ねながら心に
思い出を深めていく

編集掌記

▼8月30日。日
曜、総選挙の
日。明日には、
国民の判定によ
る日本未来の想
定図が描きださ
れるであろうが、

私欲を捨て信念と責任を
もって、航路を舟出して
ほしいと、政治家に望み
たい。▼投票を終え、少々
おくれがちになった自分
史図書館だより“ya”
の編集にとりくむ。裏の
林に、法師蟬がひ
としきり、夏の終
りを奏鳴し、書齋
むかいの平野岳は
モヤがかかって霞
んでいる。澄明な
空が昨今はなかな
か見えにくい。何
故か。▼受贈本を
手にしながら、思
うのは、読みあげ
ていくのに人生は
短かいの感。老い
て時間はとれるも
の、眼力衰退。
もつと若い頃、丹
念な読書計画のも
とに——と後悔の

自分史図書館

入館無料
開館 毎週水曜日
午前10時～午後3時
年末年始、お盆、祝祭日は休館
貸し出しはしていません。

〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



念。▼“自分史図書館”
の存在価値について、年々
に評価は高まっていくが、
若い世代に、注目、関心
を寄せる人はいないかと、
時に思う。やあ、ya!
高校生、大学生諸君！自
分史とは何ぞやと問いか
けてみる者はいないか。
(自分史図書館長 椎窓猛)